



## 浦川の歴史を訪ねる～インタビュー 村本和巳さん

活動を始めて約10ヶ月が経ちました。これまで様々な地域の方や団体に関わらせてもらう中で、改めて佐久間についてもっと知りたいという思いが強まってきました。そこで、地域の方や佐久間にかかわる方にインタビューを行い、佐久間の歴史や今後について記録していきたいと思います。

第1回目は、浦川についてです。話し手の村本さんには、浦川出身・浦川在住の立場から、子ども時代や浦川の歴史についてお話をいただきました。

### 【子ども時代】

小学生の頃は「けん(=めんこ)」が流行っていた。5,6年が場を仕切っていたね。僕が3,4年の頃はびくびくしながら「けん」しに行った。机に勉強道具は置かずに、けんをごっそり詰め込んでたよ。

あとは、浦川小にあるどんぐりの木から落ちたどんぐりを集めて、近くの砂場に山をつくってどんぐりを転がして遊んだ。家からこっそり塩ビ管持ってきたりとかして。よく勝負したね。小さい頃は鉄橋を越えたガソリンスタンドのほうや、浦川駅前に行くだけで外国に行くような気分だった。

当時、浦川小はリード合奏が強くて、全国大会に出たこともあった。5,6年の時にティンパニかコントラバスか選りなさいと言われ、音を外しても聴こえないと思ってコントラバスを選んだ。だけど、全体練習をやると久保田先生が「音が間違ってる」「一番低い音だからわかるぞ」と言われた。「ドナウ川のさざなみ」って曲をやったね。

### 【浦川の歴史】

浦川は元々、裏鹿(うらが)村だった。昔は「鹿」が川の意味だった。

実は戦国時代以降、浦川の歴史はそんなに残っていない。それは、戦とか争いが特になかったから、記録があまり残っていないのだと考えられる。佐久間の水巻城や龍山の中日向城から見て天竜川に隔たれており、当時は橋が無く渡るのが大変だったから、浦川は戦に遭わなかったのではないだろうか。

### 【感想】

村本さんと同年代の方は読んでいて当たり前の話だと思われたかもしれませんが。ですが私にとってはそのすべてが新鮮で、今とまったく違う別世界のようなお話でした。話をきいた後、浦川を歩くと「ここに子供たちが集まっていたのかな」とか「当時はもっと鮮やかな看板だったのかな」など、これまでとは違った視点で地域を見ることができ、地域を歩くのがもっと楽しくなりました。村本さんには2時間近く色々なお話を伺いました。すべて書きたいのですが、文字数・個人名等の都合で省略させていただきます。

今回は村本さんからみた浦川についてでしたが、一人ひとりの視点や思いは違います。「私が小さい頃はこんなだったよ」など、私に教えてくださいととってもうれしいです。もっともっといろいろな地域の方にお話を聴き、記録していきたいと思っています。どうかお付き合いください。もし「この人の話が聴きたい」等ありましたら、お気軽に「kanatasuzune@gmail.com」までご連絡ください。

【村本さんのプロフィール】昭和27年、浦川生まれ。県外の専門学校を経て佐久間病院に長年勤務。現在は地域のボランティア活動などに尽力している。



スマホ  
相談

5月16日(火) 10～15時

30日(火) 10～15時

場所： 杣の里 **相談無料**

主催：佐久間若者サミット  
協力：浜松山里いきいき応援隊